

認定こども園評価書

園名 とみやまこども園
園長氏名 山本 直子

1 自己評価

(1) 評価結果の特徴的なもの

保護者アンケート・・・概ね高評価である。12, 13の設問については、昨年までは低い数値になっていた。しかしながら、家庭と地域との関りも徐々に増えているようで、大きくプラスとなっている。また〇×だけでなく記述式で自由に意見を寄せて頂いたが、こちらも概ね評価は高いようである。しかしながら、中には日頃の思いを寄せられた方もいらっしゃるようで、それに対するお返事も保護者全般に伝わるようにした。

職員アンケート・・・常勤・非常勤の職員ともに高評価であった。

地域アンケート・・・公民館との連携で公開保育を行った際に、アンケートにご協力いただいた。大変良い評価であった。

(2) 分析・改善方策

保護者アンケート・・・コロナ禍も過ぎ、各家庭でも多くの方と関わることが増えたのであろう。地域での行事も徐々に復活しているが、お便り等で参加を促したがまだまだ知らない行事も多いようであることから HP 等も今後利用していきたい。また、保護者メールもできるので、こちらのツールも利用すれば広報ができると考える。

記述部分については、概ね好意的な感想である。本園は子どもの幸せを第一に考えているので、今後も園児の自律や主体性を大切に教育・保育の重要性を、機会があるごとに保護者に丁寧な説明をしていきたい。まだ保護者全員で集まる機会は多くないので、クラス懇談、行事、など小グループで集まる機会にも積極的に伝えるしていきたい。来年度も、自由参観やクラス懇談等も多く設定し、子ども達の園内での様子が理解できる機会を増やす予定である。また、ブログや保護者メール等での積極的な発信も引き続き行いたい。「子どもの為の子どもの施設」(幼児教育・保育施設)と、「大人のための子どもの施設」(託児所)の違いをもっと伝えていかないといけないと考える。園として、園長としてまだまだすべき仕事はたくさんあると感じた。

職員アンケート・・・フルタイムの職員と短時間の職員がいる中、工夫をしながら保育の理念・目標などの浸透を図った結果が概ね高評価につながったと考えられる。しかしながら現状では、地域の方々・地域学校園との関わりは役職者、5歳担任などに限られていたので、職種・担当年齢に関わらず情報が共有できるよう、職員メール等も活用してみた。岡山市式架け橋カリキュラムも学区で進んできているので、そちらも全職員で共通理解をしていきたい。次年度以降も、他の幼児教育施設や幼・小・中の授業公開や合同研修にも積極的に参加し、子ども理解と縦の連携に努めていきたい。

地域アンケート・・・丁寧に園長が説明をしながら各クラスを見て頂いたのも、より深く子ども達の事を理解していただけたように思う。ICT 化の進展が子どもと関わる時間の確保につながっていることも良く理解していただけた。学区の学校園の連携についても分かっていたように思う。

2 学校関係者評価

富山中学校区地域協働学校連絡会

(1) 学校関係者評価委員会の実施日とメンバー

実施日：第1回 令和6年6月5日（水）実施

第2回 令和7年2月13日（木）実施

メンバー：保護者、地域住民、地元学校園関係者等（地域協働学校運営協議会を活用）

7月の本園の公開保育に参加した小学校校長・副校長・教頭・教務主任も参加されていた。また、公民館主催の「しゃべり場」という、地域の皆さんに園内を見て頂く機会を10月22日（火）に実施した時に参加して下さった富山公民館館長・児童民生委員も、この会に参加をしている。

(2) 自己評価に対する学校関係者委員の評価（第2回目に実施）

各学校園が5分程度で説明をする。児童、保護者そして教職員（地域）アンケートの結果を基にする。それぞれの委員さんからその結果やご意見を以下の様に伺えた。

- ・あいさつ運動の広報の仕方をゴミステーションへのポスター張り出しから、お便り等でのお知らせに変えてはどうか。（はい、園でも毎月の園だよりで載せているので引き続きそうします。）
- ・調査、集計が大変だったと思います。幼児施設から中学校までを追ってみると、園（学校）生活が楽しいというポイントが上の学校に行くにつれ下がっている。学校園では楽しく子どもが通えるような工夫もされていることがわかるが、その原因は何でしょうか。地域としてできることがあればしていきたいです。
しゃべり場という機会もあるので、その折にしっかり参加し子ども達を見守ることも大事ですね。
- ・地域への関わりと言うことで、例えば学区の運動会なども勝ち負けではなく、家族で楽しめるような内容に変化させている。そのあたりをもっと広報していきたい。
- ・学校園の先生方が地域へ出かけ、声を気さくにかけてくれるのが大変うれしい。
- ・子ども達や家庭の課題は確かに多いが、いろいろな活動を通して多くの人に関わっていくことの大切さを感じている。
- ・富山中学校区は地域の熱心さや学校園の連携の強さがある。
- ・この学区の地域協働学校の取り組みは、市内でも自慢できるものである。特に私立園のとみやまこども園さんがこのように加わって下さっているのは、大変すばらしい。学区をあげて子どもを育てていこうとする意気込みを感じる。

とみやまこども園学区教職員向け公開保育

(1) 実施日：令和6年7月22日（月）～26日（金）の5日間

メンバー：富山中学校区学校園教職員

(2) 評価については別紙アンケートに記入していただき、そちらを集計した。幼児教育と小学校との接続も合同研修等の実施でお互いの教育の理解につながってきている。架け橋カリキュラムの開発を通して子ども同士の交流や職員の連

携も進んできたようだ。

「みんなのしゃべり場」（岡山市立富山公民館主催行事）

（１）実施日：令和６年１０月２２日（火）

メンバー：とみやまこども園園長、富山公民館館長、公民館担当者、民生児童委員、その他地域住民の方々

（２）評価については別紙アンケートに記入して頂き、そちらを集計した。年齢も幅広い方々が参加し、園にとっても貴重なご意見を沢山いただけたことはうれしい限りである。普段小さな子どもと接する機会の少ない方にとっては、丁寧に説明しながら見学をして頂いたことが、理解につながっているように感じた。

3 来年度の重点取組 ※全体的な計画に係る指導の重点との関連で記入する。

・子どもの「自律性」を育てるといふ園の教育・保育目標に向かって職員一同、引き続き協力して行う。子どもが何を考え行動しているのかを理解するためにも研修は欠かせない。勤務の形はそれぞれであるが全職員が共通の理念のもとに子ども・保護者と関われるような職員集団を作っていく。また、本園では０歳児から５歳児までの各年齢の発達を踏まえた保育・指導を行っているが、この年齢の子どもの理解だけでなく、もっと広い視野を持って各学校園と、学区内で過ごす０～１５歳の子どもの縦の連携も深めていきたい。５歳児と小学１年生をつなぐ架け橋カリキュラムの開発も具体的なカリキュラム作りに進んでいるので、そちらや公立学校がしている学プロの研修にも参加していきたい。

我々は、個々の子どもの個性を捉えながら、発達に即した支援を行うが、長時間園で過ごす子どもも多いので、明るく穏やかな家庭的な雰囲気の中、保育教諭や子ども同士の相互作用を通して様々な経験を積み、子どもの自律へとつなげていく。感染症予防の為、制約されるものもあったが、園の行事の見直しの良い機会となり、子どもにとって意味のある内容に変えてきた成果も現れてきたように思う。

また、子どもの発達・成長には環境や周囲の大人との関係も大きく影響してくるので、家庭での親子の関わり（愛と信頼関係）、園での先生やお友達との関係（集団の中で専門職による教育・保育）のそれぞれの大切さや違いも保護者に発信する機会を設けていく。

富山中学校区ではここ２０年来、４つの学校園（公私立の垣根を越えて）が連携して子どもの育ちを支えている。国がすすめている「架け橋プログラム」（５歳児と小学校１年生をつなげる、教職員同士がお互いの教育内容や子どもの成長について学び、理解を深める意義あり）についても、岡山市内は全体的に動きが遅い中、当学区ではいち早く「とみやまこども園」、「富山幼稚園」、「富山小学校」が連携を取り、検討会・合同研修や授業（保育）参観を実施している。こちらの取り組みも引き続き進めていき、子ども達が学校園を卒業した後も、縦の連携がとれる関係性を維持していきたい。来年度もちろん、積極的に他の学校園、地域の各種団体との連携を計画している。